

2026年 年頭所感



(一社)日本自動認識システム協会 代表理事会長

柴谷 浩毅

新年あけましておめでとうございます。
会員の皆様、並びに関係各位におかれましては、輝かしい新春
をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

2025年を振り返ると、日本経済は賃上げや原材料高騰
に加え、深刻な人手不足という難題に直面し続けました。
企業、特に製造業には、為替リスクへの対応と並行し、
「自動化・無人化」という構造改革が急務となりました。
厳しい環境下であるからこそ、**生成AIやロボティクス**といった
先端技術の導入期待がかつてなく高まった一年でした。

このDX(デジタルトランスフォーメーション)の波の中で、
我々の自動認識技術(画像、バイオメトリクス、RFID、QR
コードなど)は、**単なる効率化のツールから、AIやロボット
を動かす「データの目」として、その価値を飛躍的に向上
させました。**企業の競争力強化に不可欠な基盤技術へと
進化を遂げたことを、皆様と共有したいと思います。

技術進化と協会の実績

当協会の調査では、自動認識関連機器・ソフトウェア
の出荷実績は、昨年の大型案件の影響で2024年は前年
並みでしたが、依然として堅調な成長基調を維持して
います。自動認識は、もはや社会の「インフラ」です。
昨年の「自動認識総合展」では、**出展規模が拡大し、新規来
場者が全体の51%を占めました。**これは、自動認識技術が
「未来への期待」を担う存在として広く認知された証です。
特に、**生成AIと連携した事例が「自動認識システム大賞」
の受賞作品の半数を占めたこと**は、我々の技術がAIと
融合し、「次世代の自動認識」を創造するフェーズに入っ
たことを示しています。

また、**技術者資格認定制度**については、講習のオンライン
化とオンデマンドによる再視聴期間の拡大により利便性が
向上し、仙台、名古屋、大阪、福岡など東京以外の会場での
受験者も増加しており、全国的な人材育成に貢献して
います。中小企業の省力化を支援する**省力化投資補助
事業への製品登録**も継続しており、現場の課題解決に
直結する支援を進めています。

2026年、協会の注力テーマ

2026年、JAISAは改めて「SX(サステナビリティ・トラ
ンスフォーメーション)とDXに貢献する自動認識システム」
を標榜し、以下の3点に注力します。

- 1. 普及啓発と価値向上：**自動認識技術がDXに不可欠な
「データ収集のデファクトスタンダード」であることを
広くアピールします。特に、**生成AIとの連携事例**の創出
と普及に注力し、技術の「価値」を底上げします。その
一環として、2月には「自動認識総合展 大阪」を開催し、
地方での普及を強化します。
- 2. 人材育成と利便性の向上：**自動認識技術者資格認定
制度の利便性を活かし、受験機会の拡大を継続します。
「基礎知識セミナー」を企業内教育として活用できる
よう認知度向上に努めます。
- 3. 会員サービスの拡充：**会員への情報提供・教育支援、
情報発信の機会提供を充実させ、「JAISA会員である
ことの利点」を広くアピールし、会員基盤を強化します。

結びに、変化のスピードは速まる一方ですが、自動認
識技術は社会の課題を乗り越え、企業の持続的な成長
(SX)と変革(DX)の鍵を握っています。本年も、皆様と力を
合わせ、自動認識システムの価値向上と普及啓発に邁進
する所存です。

皆様の益々のご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げ、
年頭の挨拶といたします。